NIE実践報告

1．タイトル　**住みよいくらしと環境　～　沖縄と北海道の人たちのくらしを調べよう**

2．学校名

福岡県北九州市立あやめが丘小学校

3．実践者名（代表者名）

新谷奈穂子

4．学年

第5学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　38人

6．単元（本時の学習課題）名

沖縄県と北海道宗谷地方の人たちのくらし

7．目標(狙い)

日本の北と南に住む人たちの生活や産業の様子のちがいがわかり、自然環境に働きかけたり、そのよさを生かしたりして、よりよいくらしができるよう努めていることがわかるようにする。

8．評価の視点

自然環境と人々の生活や産業との関連について考えることができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「住みよいくらしと環境」（教科書教材：教育出版）27時間の中の小単元「沖縄県と北海道宗谷地方の人たちのくらし」15時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1．沖縄県と北海道宗谷地方の人々のくらしの様子について話し合い、学習問題を設定する。①
沖縄と北海道の人たちは、気候にあわせてどんなくらしの工夫をしているのだろう。
2．土地や気候の特徴、家の造りや楽しみ方の違いについて調べる（※新聞切り抜き活用）。③
3．農業や水産業の仕事を調べ、違いと気候との関係について考え合う。③
4．自然や文化の違いについて調べ、共通点について話し合う（※新聞切り抜き活用）。②
5．二つの地域の人々が抱えている問題について調べ、人々の願いについて考える。①
6．これまで学習して、調べたことや、考えたことを「ズームイン！！沖縄＆北海道」にまとめ、研究スピーチをする。⑤

11．児童・生徒の反応、感想・意見

沖縄と北海道について、「食文化」「祭り」「伝統工芸」「戦争の足あと」などのテーマごとのグループに分かれ研究発表を行わせた。児童は調べる楽しさとくらしの違いに大変興味を持つことができた。

12．成果と課題

本校では、社会科の研究校として「本物の学力を育てる」を合言葉に実践してきた。本物の学力は、学んだ知識を活用し、応用し、発展させることで育成できると考えている。その意味から、自由課題研究は、生きた活動となった。新聞活用は、学習の成果を実らせるたい肥の役目を果たしている。